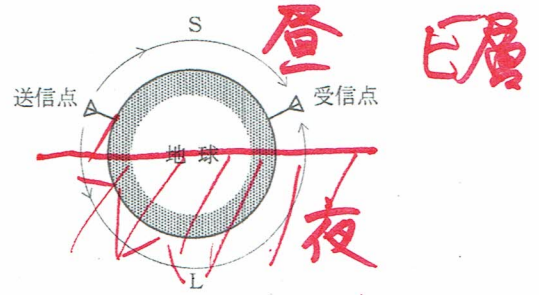


- (1) 一般に電波は送受信点間を結ぶ **大円通路** を伝搬し、そのうち概念図の S のように最も短い伝搬通路を通る電離層波は電界強度が大きく無線通信に用いられる。しかし短波帯の遠距離通信においては、S の伝搬通路が昼間で **B** 減衰が大きく、L の伝搬通路が夜間で減衰が少ないときは、S の伝搬通路よりも図の L の伝搬通路を通る電波の電界強度の方が大きくなり、十分通信できることがある。
- (2) このような逆回りの長い伝搬通路による電波の伝搬を **ロングパス** といひ、条件により同時に S と L の二つの伝搬通路を通じて伝搬すると、電波の到達時間差により **C** を生ずることがある。

A	B	C
1 対流圏	第一種	ドブラ効果
2 対流圏	第二種	エコー
3 <b>大円通路</b>	第一種	ドブラ効果
4 <b>大円通路</b>	第二種	ドブラ効果
5 <b>大円通路</b>	第一種	エコー

IC-  
Iコ-



第一種減衰 電離層を突破する時の  
反射好時  
二種

